

踏まれ踏まれても生き返る

NO.17

2024.12.12

いたばし雑草通信

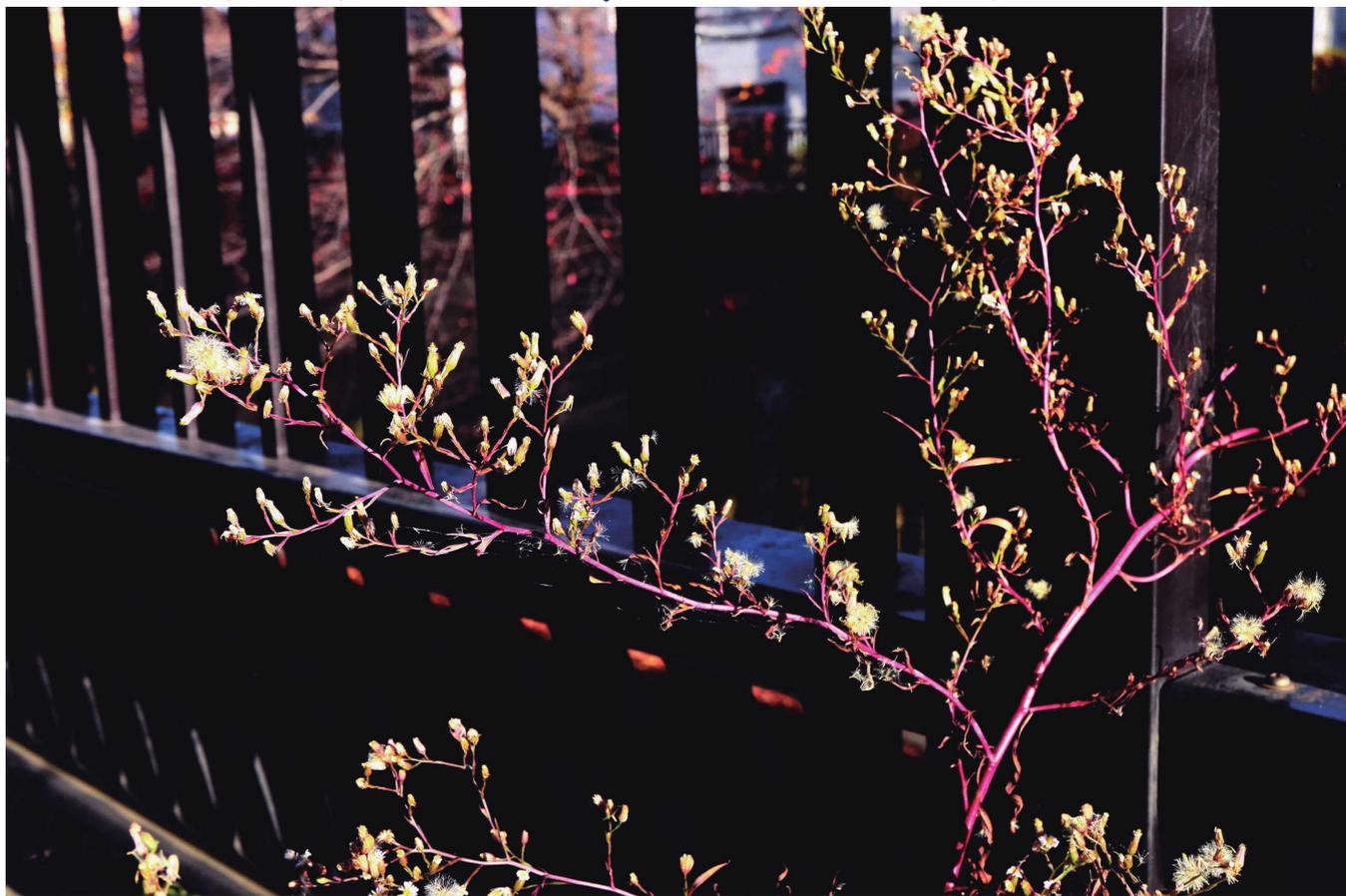
編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

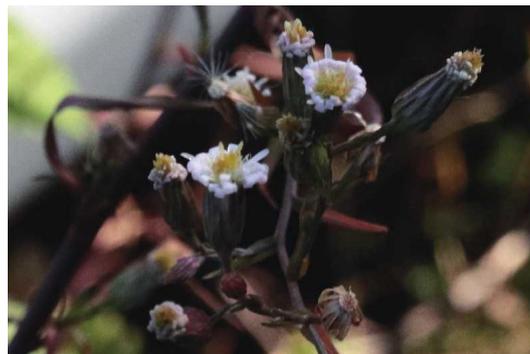
メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。鮮明画像のPDFでお送りします。

まだら紅葉の木々よりも、こっちの方が見応えあるかも



東京（板橋区）の紅葉も12月になってようやく本格的になってきましたが、やっぱりイマイチです。温暖な日々が急に冷温になって1週間ぐらい続くと赤茶色のきれいな紅葉を見せるケヤキの葉は黒茶色か灰色が多く、やっと黄色くなったイチョウはあっという間に散ってしまうなど、どうも面白くありません。

それよりも、まったく人に注目されることがないヒロハホウキギクの白い穂綿と赤い茎、これ、サンゴみたいで、こっちの方がゲイジュツ的なり！



ヒロハホウキギクはNo14で紹介した、最近ようやく同定ができた植物です。ヒメジョオンを小型にしたような花ですが枯れ姿でどうして分かるのかというと、ほら、下の方にまだ花が咲き残っている（上の右写真）ので、これで間違いないとしました。枯れ姿はヒメジョオンよりもはるかにきれいです。

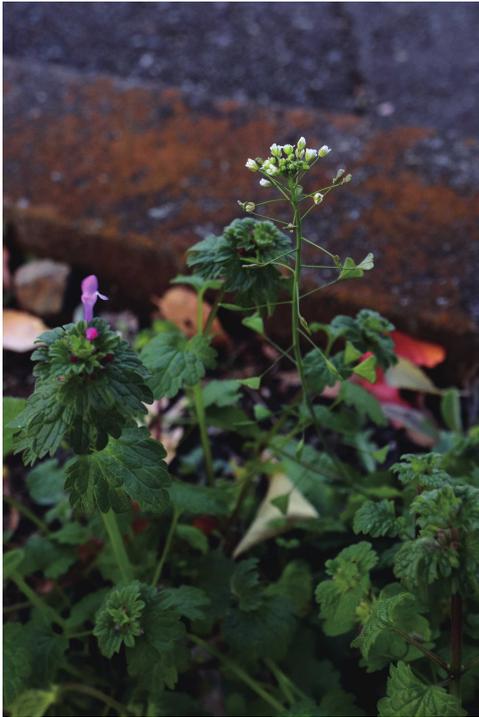
前号 (No16) の記事で同定間違いではないかとの指摘がありました

「春の七草」として知られる「コオニタビラコ」を紹介しましたが、植物に詳しい古いお仲間のNさんから「コ」が付かないただの「オニタビラコ」ではないかとのご指摘がありました。

「確信をもっていい加減なことを言う」こんな木村のレポートをまじめに読んでくださる方がいらっしやるのですね。ありがとうございます。現在、他のお仲間にも相談して調べ中です。

ナズナもチチコグサモドキも咲いた！

11月の老人健康診断で糖尿病が発覚して以来、パサパサ食で出来るだけ散歩する生活ですが、身体が軽くなったような感じ
です。こんなに早く効果が出るわけではないので、きっと「気のせい」
。でも、道端で満開気味のホトケノザ、その隣にナズナが咲
いてきて(左)、チチコグサモドキも花を付けているのはホント。



世界のあちこちで国がひっくり返るような 政治的大変動が起きている！

●イギリスでは7月の下院議会総選挙で14ぶりに労働党が政権の座に返り咲いたのは良いのだけれど、経済危機は脱せそうもありません。●アメリカでは再選を果たしたトランプ前大統領が就任前にも関わらず次々と閣僚人事、外交、国内政策を発表し、そのまま政権移譲となれば国際関係に危険な大変動が起きるのは必至の予感。●その一方で、EUの中心国ドイツでは2021年に発足した連立政権が崩壊し、●フランス政局も不安定になっています。●大国ばかりではなく、中東ではイスラエルのアラブ敵視政策はジェノサイド（民族・国家全滅攻勢）となり、ネタニヤフ首相はウクライナ侵略を止めようとしないロシアのプーチン大統領よりも悪人になり、●シリアでは数10年間続いてきたアサド親子による独裁政権があれよあれよという間に崩壊したのは良いことだけれど、それに代わる新政権は本当に民主主義なのかは不透明、●隣国の韓国では大統領が戒厳令を発令するという政権担当者によるクーデタで国内大混乱。

世界中で政治は上を下への大騒ぎ。「ロシアはウクライナ侵略をやめろ」なんてきれいごとを言ってもらえない混迷状態に陥ってしまいました。

第二次世界大戦が終わってからもうすぐ80年。この間、地球上では局地戦争は続いていても、これほどあちこちで政治の危機が表面化してきたことはありませんでした。

日本だって例外ではない

それに比べてわが日本は暢気（のんき）ですね。自民党の過半数割れだけで なんにも変わらない。政治資金の不透明さを正す法令改正で自民党は「公開方法工夫支出」なんて、使い道を明示しなくてもよい「案」を出し、それを発表した当事者の石破総理が「わたしにも分からない」と説明したりして、国会は漫才の演芸場か！

野党はこの政権を倒す決定的な力を持たないまま、これまでの自民党に代わる自分たちの利権確保に血眼になっているとしか思えません。

最近の良いニュースは、唯一、日本被爆者団体協議会がノーベル平和賞に輝いたことですが、これだって世界から核をなくす力にはなりません。

この間の政治状況で明るみに出てきたことは、日本だってグラグラだということ。

もう取り戻せない「かつての繁栄」

戦後80年間続いてきた政治・経済・社会の構造が崩壊状態にあることが問題の根底にあります。トランプさんが「偉大なアメリカをもう一度」とどんなに叫ぼうとも立て直し不能な時代。

人々が他人に頼（たよ）らず頼（たの）まず、自分自身の力で新しい社会の仕組みをつくっていくこと。恐ろしく時間のかかることだとしても、それを模索していく以外にないのだと思います。